

団体名 小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会（下関市）

代表者名	新村 義昭	団体の目的
構成員数	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・小串地区の堂道川上流に棲息するヤマグチサンショウウオを、生息環境も含めて保護・保存するための最良の方策を策定する。 ・小串小学校児童への「ヤマグチサンショウウオ」を紹介しての自然環境教育を実施する。
設立	2016年(H28)年4月	
問い合わせ先	☎083-774-0504（新村）	

事業名 準絶滅危惧種「ヤマグチサンショウウオ」保護策の検討と自然環境教育

事業の目的 ・小串地区の堂道川上流に棲息するヤマグチサンショウウオを、生息地も含めて保護・保存策の策定のための検討を行うとともに、室内では、小学校児童と飼育観察を行うことにより、自然環境教育を実施する。

事業の内容

- ・小串地区堂道川上流での観察と保護活動
 期間：4月～3月
 内容：周辺の微気象を知るために、簡易な最高最低温度計を林内と林外に設置して、観測を開始
- ・小串小学校児童によるヤマグチサンショウウオの飼育
 期間：4月～3月 場所：小串小学校
 内容：校内に水槽を設置し、児童で結成された「カスミン調査隊」が生育観察を実施
 参加者：7人

事業の成果

- ・ヤマグチサンショウウオの成体がどのような環境を好むのかという情報を蓄積できた。
- ・小学校で飼育するヤマグチサンショウウオを飼育箱に移し、児童個人が一匹ずつ担当としたことで、飼育観察を容易にすることができた。

活動現場レポート！ 児童によるヤマグチサンショウウオの飼育（R1.12.6／小串小学校）

この日は、まず、校長室で養殖している餌の様子を見せていただき、その後、活動の様子について説明を受けました。

特に、餌の確保には苦労されているようで、「主食の虫が、冬場は少ないため、シマミミズの養殖に取り組んでいるが、なかなか難航している」とのことでした。

ヤマグチサンショウウオは、校長室入り口横に設置された飼育箱で、5年生が8匹、他の学年が1匹をそれぞれ飼育しているとのこと、特に5年生は1人が1匹を担当し、名前をつけてかわいがっていました。

新村会長によると、「いずれは自然に帰したいと考えているが、人間が育てた個体はウイルスを持っており、帰すことができないという説もあり、それについても、今後研究したい」とのことでした。



校長室入り口横の飼育箱



餌となる虫を採取中